

令和8年8月 17 日

三田市長 田 村 克 也 様

三田市総合計画審議会

会長 清 水 陽 子

第5次三田市総合計画後期基本計画について(答申)

令和8年2月10日付三政第59号で諮問のありました標記の件について、当審議会において慎重に審議を重ねました。つきましては、以下のとおり、意見及び別紙の計画案を添えて答申します。

記

審議会においては、委員から別紙のとおり、200件を超える意見等が提出されるなど、これからのまちづくりについて真摯かつ熱心に審議が行われました。

市におかれては、これら意見等を踏まえて計画の策定及び推進並びにまちづくり全般の推進に十分に配慮されたい。

あわせて、次の総括的な事項についても留意していただきたい。

- 1 審議会では、委員から、自治会などの地域活動、子育て支援、災害への備え、商工業の実態などを踏まえて様々な意見があった。総合計画の実施に当たっては、市民の暮らしや意識を常に把握するよう努められたい。
- 2 本市の魅力を最大限に生かして、若い世代が一度進学や就職で三田市を出たとしても、また帰ってきたいと思えるまちづくりを進めるなどにより、少子化対策を含む人口減少対策に注力していただきたい。
- 3 今後のまちづくりにおいては、行政の取組みだけではなく、市民を巻き込んだまちづくりにも取り組んでいただきたい。
- 4 KVI として、市民の幸せ実感度という究極的な目標を指標として掲げていることは、総合計画としての矜持を示すもので評価できる。ただ、その指標をどのように把握し、活用するか、については継続的に検証、改善していただきたい。

- 5 市民の幸福度(KVI)の向上をめざすにあたっては、基本計画を構成する全25の分野において、相互に連携・補完し合い、事業や施策を推進していただきたい。また、市行政においても縦割りではなく、横断的に連携を行っていただきたい。
- 6 評価指標を体系化し整理したことで目指す方向性が可視化されわかりやすくなったが、事業の実施に当たっては、KPI を追い求めるだけではなく、施策の体系を念頭に、その先の市民のことを考えて取り組みを進めていただきたい。必要に応じて軌道修正ができるよう、柔軟に指標を見直すことにも取り組んでいただきたい。